

令和7年度 事業計画・達成評価表

センター名	中央	センターの 重点目標	助けられる命を取りこぼさない、多世代で支え合うまちづくり ～見守り支援、認知症の備え、介護予防、孤立予防など、多様な担い手と当事者が連携できる地域の拠点～	【達成度の目安】 S：目標を上回る A：目標通り B：目標をやや下回る C：目標を大きく下回る
	高齢者総合相談センター			

1-1. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する項目

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	施策2. 生活支援の充実	見守り支援事業担当による活動	60代・70代の男性は、相談歴が無く、かかりつけ医を持たないケースが多いため、安否確認時に警察・消防を要請すべきか迷うことが多い。また、発見時に死亡している割合が高い傾向にある。	①熱中症対策事業の情報を活用して、見守り訪問事業の利用拡大(年6人) ②前期高齢者向けの終活講座を、終活あんしんセンターと共同開催(年1回) ③安否確認の際に必要なとなる個人情報の更新(通年) ④アウトリーチ連絡会の開催(年1回) 民生委員と課題や情報を共有し、意見交換を行う。また、アウトリーチに関する素朴な疑問をともに考える。 ⑤出張講座・出張相談、各種イベントや事業において、中年層から前期高齢者向けの「老いの備え」に関する注意喚起のチラシを配布する。(年6回)	①見守り訪問事業の利用拡大(3人) ②終活あんしんセンターと講座を共同開催(年1回) ③熱中症訪問だけでなく、得られた有効な情報を入力する際に、旧台帳の情報を確認して整理する。(通年) ④アウトリーチ連絡会の企画・準備等 ⑤終活あんしんセンターと合同で中年層から前期高齢者向けの、「老いの備え」に関するチラシの作成。	①見守り訪問事業の利用拡大(3人) ②終活あんしんセンターと講座を共同開催(年1回) ③熱中症訪問だけでなく、得られた有効な情報を入力する際に、旧台帳の情報を確認して整理する。(通年) ④アウトリーチ連絡会の開催(年1回) ⑤出張講座・出張相談、各種事業における、「老いの備え」に関する啓発活動(3回)	【取組と成果】 ①見守り訪問事業の新規利用者は、前期0人後期4だった。アセスメントの結果、対象外である方が多かったため、利用拡大件数の目標値には届かなかったが、導入の検討をきっかけに、見守り体制及び活動の参加状況を把握できたり、他の活動等につなぐことができたりしたため、個別支援が充実した。 ②UR東京北住まいセンター、豊島区終活あんしんセンター、中央包括の三者で終活講座を共同開催した。17名の参加者の中には、子育て世代、ひとり親家庭、外国籍の方も含まれており、多機関連携の必要性を確認することができた。 ③アウトリーチ対象者(候補者含む)の台帳や実態調査票を確認した際に、WINCAREの入力情報を更新したことで、基本情報の実用性を向上した。 ④11月4日にアウトリーチ連絡会を開催した。「75歳未満のアウトリーチ活動」をテーマに、プレシニア層を含めた「老いの備え」についての講演や意見交換を行った。 ⑤終活あんしんセンターと合同で「老いの備え」に関するチラシを作製した(前期)。啓発にあたり、「老いの備え」という表現が単身者や初老の男性が不快に感じるのではないかと意見があった。そこで、表現方法の見直しを行い、ショート動画作成の検討することになった。 【課題】 令和8年度は、「老いの備え」をポジティブな活動だと思えるような動画作成を行う。作成にあたっては、地域で活動している方たちに声をかけ、活動の様子の写真をつないだ動画にするなど関わっていただくことで、制作を通じて啓発にもなるように働きかけを予定。	A

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
2	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大	住民主体の通いの場が不足していた北大塚3丁目や上池袋4丁目に、活動拠点の候補が出てきたが、まだ確定できていない。	①北大塚3丁目、上池袋4丁目を中心に、活動場所の確保(年2か所) ②2層CoやCSWと協働した、新しい通いの場を立ち上げ支援(年2か所)	①活動場所の確保 ＊北大塚3丁目もしくは上池袋4丁目に1か所 ②新しい通いの場の立ち上げ支援(1か所)	①活動場所の確保 ＊北大塚3丁目もしくは上池袋4丁目に1か所 ②新しい通いの場の立ち上げ支援(1か所)	【取組と成果】 ①北大塚3丁目、上池袋4丁目では活動場所を確保できなかったが、東池袋に、前期1か所、後期3か所、活動場所を確保した。また、企業の花壇の世話をしている地域住民とのつながりで、この企業の場所を借りることが出来るか交渉予定。また、池ハクラブ(高齢者クラブ)が活動休止となり、その後の活動支援について相談を受けた。次につながりそうな情報を活かして支援を展開していきたい。 ②2層Coと連携して、前期に「あみものひろば」「なないろ食堂」「としまる体操(イケ・サンパーク)」「大学生によるネイル体験会」の4か所の立ち上げを支援した。後期は、「対話型鑑賞会」を昨年に引き続き実施した。 また、区民ひろば上池袋の通所C卒業生が中心となり、吹き矢のサロン(ひまわり)がR8.4月から区民ひろば上池袋にて開始予定。 【課題】 北大塚、上池袋地区では、地域の方が定期的集えるような場所を確保することが難しい。 まずは、小さい活動をいろいろな場所に増やしていくことを2層Coと検討し、将来的に地域の活動場所につながるよう検討を進めたい。	S
3	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	高齢者総合相談センターの相談支援充実	セキュリティが高度な集合住宅においては、見守り体制の構築が難しい。	①集合住宅ネットワークの拡大(新規6か所) ②集合住宅ネットワーク連絡会(地区懇談会)の開催(年1回) ③2層Coと協働した集合住宅内における、サロン活動の立ち上げ支援(1か所)	①包括のポスターや掲示やチラシの設置依頼(新規3か所) ②集合住宅ネットワーク連絡会の開催(1回) ③集合住宅内における、新規サロン立ち上げ準備	①包括のポスターや掲示やチラシの設置依頼(新規3か所) ③集合住宅内における、新規サロン立ち上げ(1か所)	【取組と成果】 ①前期0か所、後期1か所、新規に講座のチラシ掲示を依頼した。 ②集合住宅ネットワーク連絡会は、「孤立予防」をテーマに開催した(6/4)。豊島区住宅課のマンション係長にも出席してもらい、現状を共有することができた。後日、同係長よりマンション管理組合との関わりについて情報提供を受け、意見交換をした。 ③集合住宅内でのサロン立ち上げには至っていない。来年度、情報収集等を強化して、集合住宅内におけるサロン立ち上げの実現を図る。 【課題】 集合住宅ネットワーク連絡会は、参加者の固定化が見られ、会議の形骸化が懸念される。新しい集合住宅の建設が進む中、そこで暮らす高齢者の見守り機能の向上とフレイル予防を実現するため、管理組合や管理人との連携強化のため、①に重点を置いた活動を実施していく。	B
4	施策3. 高齢者総合相談センターの機能強化	介護予防ケアマネジメントの推進、自立支援・重度化防止に資するケアマネジャーの育成支援	近年、居宅介護支援事業所の撤退・参入やケアマネジャーの入れ替わりが目立ち、地域におけるケアマネジメント力を維持する必要がある。	①包括主催(単独)元気はつらつ報告会の開催(3回) ②包括主催(2包括合同)元気はつらつ報告会(1回) ③CM向け研修の開催(年1回)	①包括主催(単独)元気はつらつ報告会の開催(1回) ②包括主催(2包括合同)元気はつらつ報告会(1回) ③CM向け研修準備	①包括主催(単独)元気はつらつ報告会の開催(2回) ③CM向け研修(1回)	【取組と成果】 ①包括主催(単独)元気はつらつ報告会は、前期は6/26、後期は10/23、1/22に開催した。サポートとしての職員にも参加を促し、権利擁護の視点について強化することが出来た。 ②包括主催(2包括合同)元気はつらつ報告会は、いけよん包括と8/27に合同開催した。 ①②居宅のケアマネが出席することで、多職種による視点や自立支援のためのアプローチなどを学ぶ機会となった。 ③CM向け研修は、「ケアプランデータ連携システムについて」をテーマに3月に開催した。 【課題】 ケアプランデータベースシステムの導入が進むことで事務効率が上がると考えるが、各事業所ですでに利用してるケアプラン作成ソフトがあるため導入には至らないケースが多い。	A

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
5	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	普及啓発・本人発信	認知症に関して、子ども・若者を含めた多世代に働きかけることで、地域全体で理解を深める必要がある。	①子ども・若者や就労世代を対象とした、認知症サポーター養成講座の開催(年2回) ②出張相談における、認知症関連事業の周知活動(年3回) ③認知症のかたが、自身の気持ちや特技などを表現できる機会の提供(年1事例)	①子ども・若者、就労世代を対象とした認知症サポーター養成講座の開催(1回) ②出張相談における、認知症関連事業の周知活動(1回) ③認知症のかたが、自身の気持ちや特技などを表現できる機会を作るための準備	①子ども・若者、就労世代を対象とした認知症サポーター養成講座の開催(1回) ②出張相談における、認知症関連事業の周知活動(2回) ③認知症のかたが、自身の気持ちや特技などを表現できる機会の提供(年1事例)	【取組と成果】 ①子ども・若者、就労世帯を対象とした認知症サポーター養成講座は、前期の1回のみだった(R7.9月、大正大学)。後期は、認知症サポーター養成講座の取り扱いではないが、イケサンパーク、スキップ豊成、スキップ朋有の3か所で、オリジナルの「認知症すごろく」を用いた講座を開催した。また民生委員が実施しているサロンにおいても認知症に関する講座を実施した。 ②区民ひろば上池袋とヴァンガードタワーで行っている出張相談会において、もの忘れ相談の周知(R7.5)や認知症支援講座の周知(R7.11)を計3回実施した。 ③就労意欲のある若年性認知症の方について、ボランティア活動ができるように小規模多機能いけぶくろと受け入れ方法を検討した。結果、本人の意欲を損なうことなく、利用者として通うことができた。また、イケ・サンパークの5周年記念イベントでは、「アクティブシニアの作品展」を開催し、認知症の方だけではなく、地域の高齢者の方の手しごと作品を展示することができた。 【課題】 認知症高齢者や若年性認知症の方が、ボランティアや就労ができる受け皿が少ない。	A
6	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	訪問型・通所型サービスの推進	10月からの通所型サービス利用に関するルール変更があり、自立促進、重度化防止の更なる推進が求められている。	①ケアマネ向け研修を開催し、総合事業の活用に関する周知活動を行う。 ②包括主催(単独)元気はつらつ報告会の事例選定時に、総合事業の活用を意識して検証する(2回)。 ③A6サービス利用者の検証作業(全ケース)	①総合事業の活用を取り上げた、ケアマネ向け研修の開催(1回) ②包括主催元気はつらつ報告会における、総合事業の活用を検討(1回) ③既存のA6サービス利用者の再アセスメント(全ケース)	②包括主催元気はつらつ報告会における、総合事業の活用を検討(1回) ③利用を継続したケースの一覧表作成	【取組と成果】 ①総合事業の活用については、ケアマネ地区懇談会で取り上げた。ケアマネ向け研修は、内容を「ケアプランデータシステムについて」に変更して実施した。 総合事業の理念を再確認し、B型・C型サービスの活用方法と好事例の説明などを行い、参加したCMからは前向きに利用したいなどの意見が寄せられた ②包括主催の元気はつらつ報告会では、総合事業の有効性を意識した事例検討を行った。(2回) ③A6サービス利用者の検証作業は、概ね実施できている職員と、一覧表作成のみで止まっている職員でバラツキがあり、視覚化が出来ていない。 【課題】 総合事業について、特に新入職員にとっては、理論と実践の連動させることが難しかった。同様に、委託先のCMIにも引き続き丁寧な説明が求められる。	A
7	施策2. 生活支援の充実	支えあいの仕組みづくり(地域資源の充実)	地域の社会資源は、安定的に運営されているものばかりではない。	①2層Co. との定例打合せにおける、包括、CSW、フレイル対策センター職員の情報共有・意見交換(年6回) ②つながるサロンの運営状況や課題の把握(6か所) ③高齢者クラブや町会関係の訪問と意見交換	①2層Coとの定例打合せ(3回) ②圏域内のつながるサロン訪問(3か所) ③高齢者クラブ、町会への訪問	①2層Coとの定例打合せ(3回) ②圏域内のつながるサロン訪問(3か所) ③高齢者クラブ、町会への訪問	【取組と成果】 ①2層Coとの定例会は予定通り参加して、情報共有・意見交換が出来ている。また、この定例会は、新しい事業や企画の打ち合わせの機会としても活用している。 ②圏域内のつながるサロンを訪問し(年6か所)、運営状況、課題の把握を行った。 ③3か所を訪問(上池袋東雲町会、東池袋サンシャイン町会、高齢者クラブ第3ブロック会長会)。活動案内や情報収集等を行った。 【課題】 池ハクラブ(高齢者クラブ)が活動休止となり、その後の運営方法に関する相談を受けている。今後も、同様の相談が挙がると思われるが、入会者を増やして安定的な活動ができるように支援が必要と考えられる。	A

優先順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
8	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	成年後見制度の利用促進	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の導入には労力と時間を要し、職員のスキルが大きく影響する。	①権利擁護支援が進まない方へのアプローチ方法などを検討をする機会を作る。(年1回) ②サポートとしまとの連携を強化して、役割分担や事業・講座などの情報共有の機会をもつ。 ③専門相談の活用(4件) ④リーガルサポートとケアマネジャーの合同勉強会開催(1回)	①サポートとしまとの事例検討会準備 ②サポートとしまとの連携会議(6回) ③専門相談の活用(2件)	①サポートとしまとの事例検討会(1回) ②サポートとしまとの連携会議(6回) ③専門相談の活用(2件) ④リーガルサポートとケアマネジャーの合同勉強会(1回)	【取組と成果】 ①サポートとしまとの合同事例検討会は、1回2事例を実施した。 ②サポートとしまとの連携会議は、予定通り実施した。合同研修や事例検討会の内容について協議した。 ③サポートとしまの専門相談の活用は、2件(前期1件、後期1件)だった。 ④リーガルサポートとケアマネジャーの合同勉強会は、開催できなかった。 【課題】 人事異動に伴い、スキルを持った職員が居なくなった時に、センターとしての対応力を維持することが難しい。所内のOJT体制の確立が必要。	B

※施策は各高齢者総合相談センターの優先順位に応じてプルダウンから選択してください。施策3・施策4はそれぞれ2項目を選択してください。

※重点事業は「留意事項」シートを参考にし、各高齢者総合相談センターで設定してください。

1-2. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する指標

No.	項目	前年度実績	今年度目標	今年度実績
1	A8、通所C利用促進(回数)	26回	25回	33回
2	つながるサロン訪問(回数)	2回	5回	6回
3	区・包括主催元気はつらつ報告会(事例件数)	4件	4件	4件
4	地区懇談会(回数)	5回	4回	4回
5	出張講座・出張相談(回数)	33回	25回	33回
6	認知症サポーター養成講座(回数)	6回	2回	1回
7	認知症初期集中支援事業(回数)	3回	3回	2回
8	もの忘れ相談(回数)	10回	10回	4回
9	認知症の地域づくり推進(回数)	14回	12回	14回
10	相談3事業(回数)	3回	3回	3回

2. 高齢者総合相談センターの運営体制に関する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	職員の資質向上	サポートとしまと合同研修を実施する。 (年2回)	記録の書き方研修の実施	事例検討会(1回2事例)	【取組と成果】 前期の「記録の書き方研修」では、記録に関する共通理解を図り、組織として求めている対応を示すことが出来た。後期の事例検討では、ケースを提出した職員から、「新しい視点を見つけることが出来た。」との意見があった。 【課題】 日常業務の中で、職員に如何に負担感を与えずに実施することが出来るか、工夫が求められる。	A
2	事故防止・コンプライアンスの強化	年2回、個人情報取扱いに関するセルフCheckシートを実施するとともに、個人情報規定の確認を行う。	①個人情報取扱いに関するセルフCheckシートを実施し、前回との比較を行う(1回) ②個人情報保護規程の読み合わせを行う。	①個人情報取扱いに関するセルフCheckシートを実施し、前回との比較を行う(1回) ②個人情報保護規程の読み合わせを行う。	【取組と成果】 ①個人情報取扱いに関するセキュリティセルフCheckを年2回実施して、各自出来ているところと出来ていないところを把握することが出来た。 ②職員会議の場において、個人情報保護規程の読み合わせを実施した。 【課題】 毎年、同じ項目が出来ていない職員がいる。改善につながるようにしたい。	A
3	業務改善・ICTの利活用	①医師の要請に応じて、MCSを使った利用者支援を行う。 ②元気はつらつ報告会の参加要請をMCSのタイムラインを使って行う。	①MCSを使った利用者支援(医師からの要請時) ②元気はつらつ報告会の参加要請にMCSを使用(年3回)	①MCSを使った利用者支援(医師からの要請時) ②元気はつらつ報告会の参加要請にMCSを使用(年3回)	【取組と成果】 ①MCSを使った利用者支援は、4ケース。 ②元気はつらつ報告会の参加要請にMCSを使用したか、あまり効果はなかった。 【課題】 MCSを使った利用者支援は、職員個人個人が端末を所有していないため、タイムリーに閲覧することが出来ないため、急ぐ内容は電話で行うことになり、有効な活用が難しい。	A

3. 高齢者総合相談センターが独自に設定する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	グリーフケアの取り組みを基盤にした多様な担い手の確保に関する試験的取り組み	①R6年度に実施したアンケート調査の結果をもとに、多職種連携の会やCM地区懇談会で意見交換をする。(年3回) ②有償、無償を問わず、協力会員やスタッフを募集している関係機関等に対する取り組みの説明及び受け入れ協力の要請。(4か所) ③死別、離別などの喪失体験をした家族介護者に、グリーフケアまたは社会活動への参加を提案してみる。(年2件) ④グリーフケアを専門的に実施している機関の把握	①アンケート結果のフィードバックと意見交換(3回:中央圏域多職種連携の会コアミーティング、CM地区懇談会、豊島区民社協CSW) ②関係機関に対する、取り組みの説明と受け入れ要請(2か所) ③死別、離別、喪失体験をした家族介護者に、グリーフケアまたは社会参加を提案(1件) ④グリーフケアを実践している団体や医療機関の情報整理(通年)	②関係機関に対する、取り組みの説明と受け入れ要請(2か所) ③死別、離別、喪失体験をした家族介護者に、グリーフケアまたは社会参加を提案(1件) ④グリーフケアを実践している団体や医療機関の情報整理(通年)	【取組と成果】 ①アンケート結果のフィードバックを行った。(多職種連携の会コアミーティング、中央圏域CM地区懇談会) ②豊島ボランティアセンター、中央圏域CSWへ、事業の説明とボランティアの受け入れを要請した。 ③グリーフと思われる介護者4事例中3事例について、つながらるサロン、介護保険サービスを紹介した。サロンに参加するうちに、亡くなった夫の話をするようになったり、手の振戦が落ち着いてきたりするなど、介護者の様子に変化が見られた等の報告があった。 ④アンケートや、個別で寄せられた情報をリスト化した。 【課題】 グリーフの状態にある人を社会資源に繋げることはできたが、担い手として活躍してもらうまでのプロセスは時間がかかるだけでなく、専門的スキルを要することを実感した。また、受け皿となる団体が少ない。	A
2	高齢者が特技や趣味を活かした社会貢献活動	①絵画、編み物、手芸、切り絵など、自らの趣味活動を披露する場を提供する。(年3回) ②希望があれば、販売した収益を寄附できるよう、複数の分野の寄付先と担当者を案内できる	①アクティブシニアの作品展を開催(1回) ②作品を寄附に繋げるためのルール作り。	①アクティブシニアの作品展を開催(2回) ②高齢、障害、子ども・若者、地域づくりなど、他分野にわたった寄附の受け入れ先の担当者と連絡先のリストアップ。(5団体)	【取組と成果】 ①キッチンタナベがストリートキオスクに出店した際に、高齢者等の作品を軽食購入者へプレゼントとして配布した(5月・10月)。また、イケ・サンパークの5周年記念イベント(12月)では、アクティブシニアの作品展を実施した。高齢者だけではなく、子どもや難病の方にも出品して頂いた。 ②出品はしても、販売・寄附に至る方はいなかった。 【課題】 自らの作品を、無料で配布することには承諾しても、販売するとなるとハードルが高い様子。出品者を介護者や大学生などに広げることで、多世代交流を兼ねた展開を検討したい。	A

令和8年度 事業計画・達成評価表

センター名	中央	センターの 重点目標	孤立を防ぎ多世代で支え合うまちづくり ～見守り支援、認知症の備え、介護予防、多様な担い手と当事者が連携できる地域づくりの拠点～	【達成度の目安】 S：目標を上回る A：目標通り B：目標をやや下回る C：目標を大きく下回る
	高齢者総合相談センター			

1-1. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する項目

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	施策2. 生活 支援の充実	見守り支援事業 担当による活動 一専門的な見守り	男性の前期高齢者の場合、相談歴がなく、かかりつけ医を持たないケースが多いため、安否確認時や緊急対応する際に対応に苦慮するケースが多い傾向にある。	①熱中症対策事業の情報等を活用し、見守り訪問事業の利用拡大(新規利用者 年6人) ②アウトリーチ連絡会の開催(年1回) 熱中症対策事業をテーマに、民生委員と課題や現状の共有、意見交換を行う。 ③老いの備えに関する動画作成 令和7年度アウトリーチ連絡会が出た意見から始まった動画作成を通じて、関係機関や地域住民と共に、老いの備えについての啓発を地域に向けて行う。	①見守り訪問事業の利用拡大(3人) ②アウトリーチ連絡会の開催(年1回) ③老いの備えに関する動画の企画をかためる。 また、関係機関や地域住民等に働きかけ、活動の参加者を増やす。	①見守り訪問事業の利用拡大(3人) ②アウトリーチ連絡会の開催報告の作成および次年度開催に向けて準備 ③老いの備えに関する動画の作成 作成に参加協力してもらうことで、関係機関や地域住民に対する普及啓発へつなげる	【取組と成果】 【課題】	
2	施策1. 介護 予防・健康づくりの 推進	高齢者の社会参加と住民主体の 通いの場の拡大	住民主体の通いの場が不足していた北大塚3丁目、上池袋4丁目に活動拠点の候補地は見つかったが、具体的取り組みに進めていない。	①北大塚3丁目、上池袋4丁目に活動場所を確保(年2か所) ②2層CoやCSWと協働して、新しい通いの場の立上げを支援(年2カ所)	①活動場所の確保 ※北大塚3丁目または上池袋4丁目に1か所 ②新しい通いの場の立ち上げ支援(1か所)	①活動場所の確保 ※北大塚3丁目または上池袋4丁目に1か所 ②新しい通いの場の立ち上げ支援(1か所)	【取組と成果】 【課題】	
3	施策3. 高齢者総合 相談センターの機能 強化	高齢者総合相談 センターの相談支援の充実	セキュリティが高い集合住宅における見守り体制の構築が難しい。 また、集合住宅ネットワーク参加者が固定化し、会議の形骸化が懸念される。	①集合住宅との関係の再構築と状況把握 集合住宅の管理組合や管理会社に対し、改めて状況把握を行い、課題や現状の共有を図る。 ②状況把握ができた集合住宅の中から選定し、サロン活動の立上げにつなげる。(1か所)	①集合住宅の状況把握のための聞き取りを実施 ②状況把握をしたマンションのうち、住民同士の交流や見守りの課題を選定	①把握した集合住宅の状況について、区担当者との共有し、今後の連携を検討 ②サロン立ち上げ支援を実施(1カ所)	【取組と成果】 【課題】	
4	施策3. 高齢者総合 相談センターの機能 強化	介護予防ケアマネジメントの推進、自立支援・重度化防止に資するケアマネジャーの育成支援	居宅介護支援事業所の撤退や新規参入が多いため、地域のケアマネジメント力維持向上の支援の必要がある	①包括主催元気はつらつ報告会を開催(単独3回、共同1回)し、居宅のケアマネに参加を促し、自立支援の視点を共有する。 ②ケアマネ向け研修会を開催(年1回)。1人ケアマネの事業所も多いため、研修の企画運営への協力や、研修会での意見交換を通じて資質向上を図る。	①包括主催元気はつらつ報告会開催(単独1回、共同1回) ②ケアマネ地区懇談会を通じて把握した課題を基に研修内容を企画	①包括主催元気はつらつ報告会開催(単独2回) ②11月に苦情対応・カスハラをテーマにしたケアマネ向け研修会を開催(1回)	【取組と成果】 【課題】	
5	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	普及啓発・本人発信支援	認知症に関して、子ども・若者のうちに関心を持つ機会を作る必要がある。	若年層への認知症啓発(年2回) 認知症すごろく等の活用により子どもや若者を対象とした認知症を理解する講座(イベント)を開催。 認知症の方もボランティアとして参加するなどの機会をつくる。	認知症すごろく等を活用した子ども・若者向けの認知症講座(イベント)の開催(1回)	認知症すごろく等を活用した子ども・若者向けの認知症講座(イベント)の開催(1回)	【取組と成果】 【課題】	
6	施策2. 生活支援の 充実	ささえあいの仕組みづくり (地域資源の充実)	地域の社会資源は安定的に運営されているものばかりではなく、継続的な関りが必要。	①つながるサロンの運営状況や課題を把握(6カ所) ②2層Coとの定例打合せによる情報共有、意見交換(年6回)	①圏域内のつながるサロン訪問(3か所) ②2層SCとの定例打合せ(3回)	①圏域内のつながるサロン訪問(3か所) ②2層SCとの定例打合せ(3回)	【取組と成果】 【課題】	

優先 順位	施策	重点事業	現状と課題 (簡潔に記入)	重点事業に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
				取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
7	施策4. 自分らしく安心して暮らせる地域づくり	成年後見制度の利用促進	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の導入には職員の支援スキルが大きく影響し、導入には大きな時間と労力が必要となる。	①サポートとしまとの連携強化のための連携会議開催(年12回) 事業の予定や、業務における役割分担・協働について情報共有・検討の機会をもつ。 ②リーガルサポートとケアマネジャーの合同勉強会開催(1回)	①サポートとしまとの連携会議を開催し課題等を共有・検討(6回) ②合同勉強会の企画検討	①サポートとしまとの連携会議を開催し課題等を共有・検討(6回) ②合同勉強会の開催(1回)	【取組と成果】 【課題】	
8	施策1. 介護予防・健康づくりの推進	訪問型・通所型サービスの推進	令和7年10月からサービス利用のルールが変わり、自立促進が求められているが、居宅のケアマネの理解が十分ではない状況がある。	ケアマネ向け研修を開催し、総合事業のサービスについて周知を行うとともに、理解と活用の促進を図る。	所内で、総合事業の利用に該当しそうなケースの共有や介護予防についての共通認識を図る。	ケアマネ向け研修を開催し、総合事業の理解を深める。	【取組と成果】 【課題】	

※施策は各高齢者総合相談センターの優先順位に応じてプルダウンから選択してください。施策3・施策4はそれぞれ2項目を選択してください。

※重点事業は「留意事項」シートを参考にし、各高齢者総合相談センターで設定してください。

1-2. 豊島区地域包括支援センター運営方針に関する指標

No.	項目	前年度実績	今年度目標	今年度実績
1	つながるサロン訪問(回数)	6回	6回	回
2	区・包括主催元気はつらつ報告会(事例件数)	4件	4件	件
3	地区懇談会(回数)	4回	4回	回
4	出張講座・出張相談(回数)	33回	25回	回
5	認知症サポーター養成講座(回数)	1回	1回	回
6	認知症初期集中支援事業(回数)	2回	2回	回
7	もの忘れ相談(回数)	4回	4回	回
8	認知症の地域づくり推進(回数)	14回	12回	回
9	相談3事業(回数)	3回	3回	回

2. 高齢者総合相談センターの運営体制に関する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	職員の資質向上	サポートとしまと合同研修を実施(年2回)	合同研修(報連相の重要性、組織としての対応について)	事例検討会(2事例)		
2	事故防止・コンプライアンスの強化	①2回、個人情報の取り扱いに関するセルフcheckシートの実施と、個人情報保護規程等の確認を行う。 ②月1回の職員会議を活用し、業務に関連する法令やハラスメント等の共有を図る。	①セルフcheckシートの実施と、規程の読み合わせ(1回) ②毎月の職員会議で1つのテーマを決め情報を共有とミニ勉強会の開催(2回)	①セルフcheckシートの実施と、規程の読み合わせ(1回) ②毎月の職員会議で1つのテーマを決め情報を共有とミニ勉強会の開催(2回)		
3	業務改善・ICTの利活用	①医師の要請に応じてMCSを使用して利用者支援を実施。 ②新入職員に対し、MCSの活用について所内勉強会を実施	①医師からの要請時にMCSを活用 ②MCSの利用について所内勉強会を開催	①医師からの要請時にMCSを活用 ②MCSの活用事例について所内で共有		

3. 高齢者総合相談センターが独自に設定する項目

No.	評価項目	評価項目に基づく計画	計画のスケジュール		取組と成果・次年度に向けた課題	達成度
		取組内容・客観的な数値目標	前期(4月～9月)	後期(10月～3月)	どのような取組を行い、どの程度成果が上がったか 次年度に向けた課題を具体的に記入する。	
1	高齢者の特技や趣味を生かした社会貢献活動	①社会貢献活動の情報提供・機会の確保 手仕事や音楽、園芸・農作業等の趣味活動を披露する場や、職務経験等を活かす機会を提供。 希望があった場合、活動の収益を寄附できるように寄付先の情報収集や連携の仕組みを作る。 ②「文化的処方」のような取組み・考え方を広める 文化的活動が高齢者の意欲向上や孤立予防につながることを事例を通じて地域住民等に周知することで、高齢者の社会貢献活動につながる機会を増やす。	①アクティブシニアの作品展開催(1回) リペアカフェの周知・活動支援と収益を寄附する仕組みづくりに向けた情報収集 ②見守り通信の配布先を増やす(2件)	①アクティブシニアの作品展開催(1回) ミニコンサート開催(1回) 収益を寄附する仕組みを構築 ②中央圏域での文化的活動の効果について検証(実施状況とその効果の分析・検討)をし、次年度の取組みを準備。		